

安全データシート (SDS)

作成日:2023年01月10日

1.製品名及び会社情報

製品名(化学名、商品名): カーボンキュールALL
会社名: 株式会社研削研磨
住所: 東京都墨田区横川1-10-3
電話番号: 03-5619-4857
緊急時の電話番号: 03-5619-4857
FAX番号: 03-5619-4858
推奨用途及び使用上の制限: 水溶性切削・研削液

2. 危険有害性の要約

【混合物の情報】

GHS分類:

物理化学的危険性:

火薬類	分類対象外
可燃性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
酸化性ガス類	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分に該当しない
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類対象外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性化学品	分類対象外
健康に対する有害性:	
急性毒性(経口)	区分に該当しない
急性毒性(経皮)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:気体)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:粉じん)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:ミスト)	区分に該当しない
皮膚腐食性・刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分2
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

警告

危険有害性情報

注意書き

強い眼刺激

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸器用保護具等、適切な保護具を着用すること。

屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。

取扱後は手をよく洗うこと。

環境への放出を避けること。

粉じん/ヒューム/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

飲み込まないこと。

眼、皮膚、又は衣服に付けないこと。

空容器に圧力をかけないこと(破裂のおそれがあるため)。

容器を溶接、加熱、穴あけ又は切断しないこと(残留物が爆発・発火するおそれがある)。

容器を密閉し、取り扱い時にはこぼれないように注意をすること。

汚染された作業易衣は作業場から出さないこと。

指定された個人用保護具を使用すること。

用途の変更や一般家庭での使用は避けること。

【火災時の処置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

【応急措置】

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激又は炎症等皮膚に異常が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合: 清浄な水で、15分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗うこと。眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。可能であれば、多量の水を飲ませ、吐き出させること。意識がない場合は、水を与えたり、吐かせたりしないこと。気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

容器を密栓して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

子供の手の届かない場所に保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国・地域情報:

情報なし

3. 組成、成分情報

化学物質

単一製品・混合物の区別:

成分及び含有量

混合物

カルボン酸、アミン類、防食剤、界面活性剤、油脂類、防腐剤、消泡剤、カーボン、水

化学名又は一般名:

化学特性(化学式又は構造式): 特定できず

濃度又は濃度範囲:

混合物につき対象外

4. 応急処置

吸入した場合:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
皮膚に付着した場合:	多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激又は炎症等皮膚に異常が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
眼に入った場合:	汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 清浄な水で、15分間、注意深く洗うこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗うこと。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
飲み込んだ場合:	ただちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。 可能であれば、多量の水を飲ませ、吐き出させること。 意識がない場合は、水を与えたり、吐かせたりしないこと。 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤:	粉末消火剤、泡消火剤(耐アルコール性)、二酸化炭素、砂、噴霧水
使ってはならない消火剤:	棒状注水
火災時の特有の危険有害性:	加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置:	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。 風上から消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(8.ばく露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入は避ける。 適切な防護衣を着けていない時は破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項:	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。(排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。)
回収、中和:	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 多量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所へ導いて回収する。
封じ込め及び浄化の方法・機材:	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は設置する。
二次災害の防止策:	排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 全ての着火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。 容器内に水を入れてはいけない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気: 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項: 使用前に使用説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

接触回避:

『10. 安全性及び反応』を参照。

保管

技術的対策: 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。

保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。

保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ、適当なためますを設けること。

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

混触危険物質: 『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管条件: 混触危険物質と離して保管すること。

施錠して保管すること。

容器包装材料:

包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度: 設定なし

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標): 設定なし

日本産衛学会(2006年版):

設定なし

ACGIH(2006年版):

設定なし

製品に含まれる成分の許容濃度

成分: 設定なし

管理濃度: 設定なし

許容濃度:

日本産衛学会(2006年版): 設定なし

ACGIH(2006年版): 設定なし

設備対策: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

空気中の濃度を暴露限界以下に保つために排気用の換気を行うこと。

高熱工程でミスト、粉じん、ヒューム、ガスが発生する時は、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具: 必要に応じて適切な呼吸用保護具を着用すること。

暴露の可能性がある時は適切なマスクを必要に応じて着用する。

手の保護具: 必要に応じて個人用保護手袋を使用すること。

暴露の可能性がある時は耐薬品性の保護手袋を必要に応じて着用する。

眼、顔面の保護具: 適切な眼の保護具を着用すること。

保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具: 必要に応じて個人用の保護衣、顔面用保護具を使用すること。

しぶきの可能性のある場合は、耐薬品性の防護服及びブーツを必要に応じて着用する。

衛生対策: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:	黒色液体
臭い:	低臭
pH:	8.8±0.2(10%水溶液)
融点:	-15°C以下
沸点:	105°C(1.013 Pa)
引火点:	なし
発火点:	データなし
爆発範囲:	データなし
蒸気圧:	10.7 Pa
蒸気密度(空気 = 1):	2.62
密度:	1.02(20/20°C)
溶解度:	水可溶 アルコール、アセトンに溶解
オクタノール/水分配係数:	データなし
自然発火温度:	データなし
分解温度:	データなし
臭いのしきい(閾)値:	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1):	データなし
燃焼性(固体、ガス):	該当しない
動粘度(40°C、mm ² /s):	3.0

10. 安定性及び反応性

反応性:	常温では安定である。
化学的安定性:	常温では安定である。
危険有害反応可能性:	通常の貯蔵、取り扱いでは安定である。
避けるべき条件:	高温、火花、裸火、混触危険物質との接触を避ける。
混触危険物質:	強酸化剤、酸、禁水性物質
危険有害な分解生成物:	燃焼により、有害なガス(一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物等)を生成する。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)

アルカノールアミン: LD50=∞、濃度=10~20%

計算式(100-毒性値不明の成分の濃度合計)/(判定対象製品の毒性値)

= (各成分の濃度/各成分の毒性値)の合計より得られた毒性推定値が5000より大きいため、区分に該当しないとした。

ただし、製品のうち約25%の成分は毒性が不明であった。

急性毒性(経皮)

アルカノールアミン: LD50=∞、濃度=10~20%

計算式(100-毒性値不明の成分の濃度合計)/(判定対象製品の毒性値)

= (各成分の濃度/各成分の毒性値)の合計より得られた毒性推定値が5000より大きいため、区分に該当しないとした。

ただし、製品のうち約25%の成分は毒性が不明であった。

急性毒性(吸入:気体)

本製品は液体であり、区分に該当しないとした。

急性毒性(吸入:蒸気)

全成分において毒性区分が不明又は含有量がカットオフ値以下であるため、分類できないとした。

急性毒性(吸入:粉塵及びミスト)

全成分において毒性区分が不明又は含有量がカットオフ値以下であるため、分類できないとした。

皮膚腐食性・刺激性

アルカノールアミン: 区分に該当しない、濃度=10~20%

製品のpHが2以下

製品のpHが11.5以上

(区分1の濃度合計)×10+(区分2の濃度合計)が10%以上

以上の条件をすべて満たさなかったため、区分に該当しないとした。

ただし、製品のうち約25%の成分は毒性が不明であった。

眼に対する重篤な損傷・刺激

アルカノールアミン: 区分2B、濃度=10~20%

眼刺激性 区分2Bの濃度の合計: 10~20%

眼又は皮膚区分1の濃度合計が1%以上3%未満

眼区分2または眼区分2Aの濃度合計が10%以上

(眼区分1の濃度合計) × 10 + 眼区分2又は眼区分2Aの濃度合計が10%以上

眼区分1 + 皮膚区分1の濃度合計が1%以上3%未満

(眼区分1 + 皮膚区分1の濃度合計) × 10 + 眼区分2A又は眼区分2Bの濃度合計が10%以上

以上の条件のいずれかを満たすため、区分2とした。

ただし、製品のうち約25%の成分は毒性が不明であった。

呼吸器感作性

全成分において毒性区分が不明又は含有量がカットオフ値以下であるため、分類できないとした。

皮膚感作性

全成分において毒性区分が不明又は含有量がカットオフ値以下であるため、分類できないとした。

生殖細胞変異原性

アルカノールアミン: 区分に該当しない、濃度=10~20%

生殖細胞変異原性をもつ成分のうち、濃度0.1%以上(区分1)もしくは1%以上(区分2)含まれる

成分がないため、区分に該当しないとした。

ただし、製品のうち約25%の成分は毒性が不明であった。

発がん性

全成分において毒性区分が不明又は含有量がカットオフ値以下であるため、分類できないとした。

生殖毒性

アルカノールアミン: 区分2、濃度=10~20%

区分2に分類される成分がカットオフ値3%以上含まれるため、区分2とした。

ただし、製品のうち約25%の成分は毒性が不明であった。

特定標的臓器・全身毒性

(単回ばく露)

全成分において毒性区分が不明又は含有量がカットオフ値以下であるため、分類できないとした。

特定標的臓器・全身毒性

(反復ばく露)

全成分において毒性区分が不明又は含有量がカットオフ値以下であるため、分類できないとした。

誤えん有害性

全成分において毒性区分が不明又は含有量がカットオフ値以下であるため、分類できないとした。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)

アルカノールアミン: 区分3、LC50=不明、EC50=20mg/L、濃度=10~20%

区分3の濃度の合計: 10~20%

「(区分1の濃度合計) × 100 + (区分2の濃度合計) × 10 + (区分3の濃度合計) が25%以上」

を満たさない。以上より区分に該当しないとした。

ただし、製品のうち約25%の成分は毒性が不明であった。

水生環境有害性 長期(慢性)

アルカノールアミン: 区分3、LC50=不明、EC50=不明、濃度=10~20%

区分3の濃度の合計: 10~20%

「(区分1の濃度合計)(換算値) × 100 + (区分2の濃度合計) × 10 + (区分3の濃度合計)

が25%以上」を満たさない。

「区分1の濃度合計 + 区分2の濃度合計 + 区分3の濃度合計 + 区分4の濃度合計が25%以上」

を満たさない。

以上より区分に該当しないとした。

ただし、製品のうち約25%の成分は毒性が不明であった。

オゾン層への有害性

全成分において毒性区分が不明又は含有量がカットオフ値以下であるため、分類できないとした。

残留性/分解性:

データなし

生体蓄積性:

データなし

土壤中の移動性:

データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体が処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装:	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

陸上輸送	
国連番号	非該当
品名	非該当
国連区分	非該当
容器等級	非該当
海上輸送(IMOの規定に従う)	
国連番号	非該当
品名	非該当
国連区分	非該当
容器等級	非該当
航空輸送(IATAの規定に従う)	
国連番号	非該当
品名	非該当
国連区分	非該当
容器等級	非該当
その他	運搬に関しては、転倒、落下ならびに損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。『7. 取扱い及び保管上の注意』記載事項の他、法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	
名称等を表示すべき有害物	非該当
名称等を通知すべき有害物	非該当
有機溶剤中毒予防規則	非該当
特定化学物質障害予防規則	非該当
消防法	危険物に非該当
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に非該当
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	指定化学物質等に非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特定管理産業廃棄物に非該当
特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律	特定物質に非該当

16. その他の情報

記載内容の問い合わせ先: 株式会社研削研磨
Tel: 03-5619-4857 Fax: 03-5916-4858

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。